

論文番号 21

担当

滋賀医科大学 福祉保健医学講座

題名 (原題/訳)

Alcohol intake, type of beverage, and the risk of cerebral infarction in young women

若年女性におけるアルコール摂取量、アルコール飲料の種類と脳梗塞発症危険

執筆者

AM Malarcher, WH Giles, JB Croft, et al.

掲載誌 (番号又は発行年月日)

Stroke 2001; 32: 77-83.

キーワード

飲酒、脳梗塞、青年

要旨

青年期におけるアルコール飲料量、アルコール飲料の種類と脳梗塞発症の危険性に関する研究は少ない。そこで、ワシントン、ボルチモアにおける59病院の共同研究により、若年女性脳梗塞発症に及ぼすアルコールの影響を、症例対照研究により明らかにした。症例は224例の15歳から44歳の患者であり、対照者は392名の年齢と居住地域を合わせた脳卒中既往のない女性である。初発の脳梗塞を対象とした。対照者は、電話番号を使用してランダムに抽出された。アルコール飲用習慣に関する調査は、面接により生涯アルコール消費量、および過去1年、1週間、1日当たりのアルコール消費量とアルコール飲料の種類を調査した。患者本人から調査できない場合は、家族に面接して調査した。

危険性の推定はロジスティック回帰分析を使用して行い、年齢、人種、教育、喫煙を考慮に入れた調整オッズ比を求めた。その結果、非飲酒者と比べ、24g/日までの純アルコール消費量は、低い脳梗塞発症危険度であった(12g/日未満のオッズ比0.57、12-24g/日は0.38)。アルコール飲料の種類では、ビール、ワイン、リキュールの3種類を検討したが、ワインを飲むものは、有意にオッズ比が低かった。

結果として、軽度から中等度(1日2杯まで)のアルコール消費は、若い女性の脳梗塞発症危険度を低下させると考えられた。